

デュアルキュア型 支台築造用接着性コンポジットレジン 「ユニフィルコア」の臨床応用

茨城県土浦市・しば歯科医院

柴 海造



はじめに

今春、ジーシー社より発売された「ユニフィルコア」はデュアルキュア型支台築造用コンポジットレジンである。最大の特徴は接着性モノマー「4-MET」による高い接

着性である。ユニフィルコアの接着性の高さは、その操作性の良さとともに脱離や歯根破折の少ない支台築造を大いに期待させるものである。

そこで本稿では「ユニフィルコア」について、実際に応用した臨床例とともに紹介してみたい。

症例1 既製ポストを利用した最も基本的なパターン



1
1

根管形成した $\overline{1}$ 。ピースリーマーのNo.4程度にとどめておく。



1
2

既製の金属ポストを試適。築造後の支台歯から突出しないよう隣在歯切端より少々低めに設定する。



1
3

新開発のセルフエッチングボンド。接着性モノマー「4-MET」を含有しており、全く新しい接着システムを可能にした。



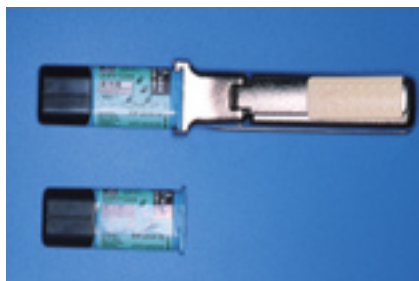
1
4

セルフエッチングボンドの塗布。



1
5

ペーパーポイントで液だまりを吸い取る。これを行わないと、ペースト填入直後に硬化し、失敗するので注意が必要である。



1
6

CDディスペンサーとカートリッジ。簡単で正確な計量ができる。



1
7 ニードルタイプのCRシリンジは根管内への填入に便利である。



1
8 GCメタルプライマーIIをポストに塗布。



1
9 ポストにセルフエッチングボンドを塗布し、充分乾燥させておく。



1
10 ユニフィルコアのペーストを填入する。



1
11 ポストを挿入する。



1
12 あらかじめ製作しておいたテンポラリークラウンを利用すると容易に適切な形に築造することができる。



1
13 十分に光照射する。



1
14 硬化後、テンポラリークラウンを除去。支台歯形成を行う。

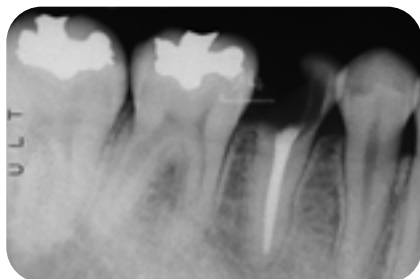


1
15 支台歯形成後。

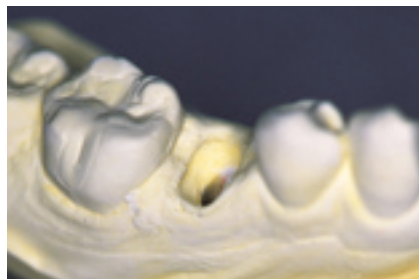
症例2 模型上でコアを作製した症例 —十分な形態を整えておくことができるのが利点—



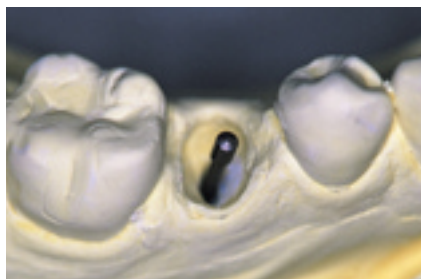
2
・
1 コア形成前の状態 5]。



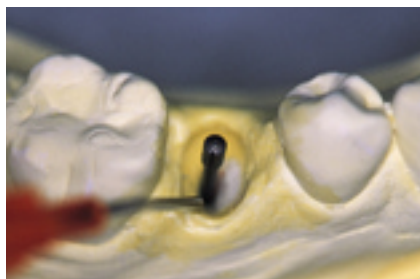
2
・
2 根管充填後のレントゲン写真。



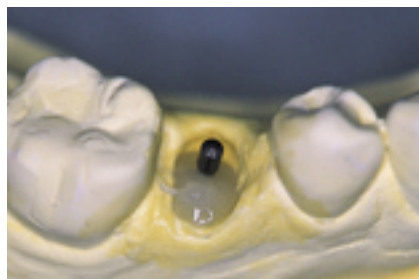
2
・
3 ピーソーリーマーのNo.4まで拡大して石膏模型を製作する。



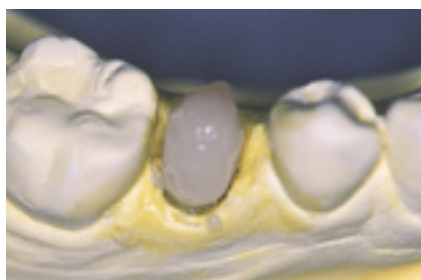
2
・
4 既製ポストの試適。



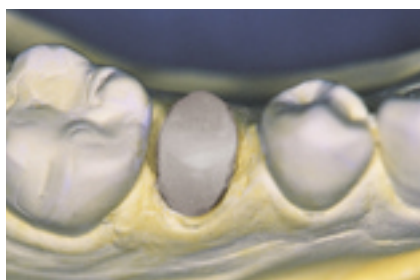
2
・
5 分離材としてワセリンを塗布した後、ペーストを築盛していく。



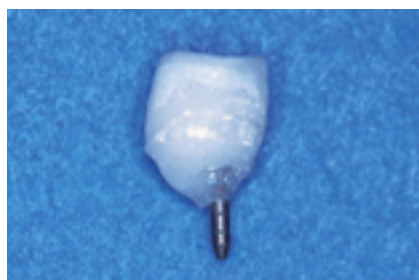
2
・
6 光照射し、硬化させながら築盛する。



2
・
7 築盛完了。



2
・
8 形態を整える。



2
・
9 模型上で出来上がった支台築造体。



2
・
10 通法に従い根管内にペーストを填入する。



2
・
11 築造体を挿入し、光照射する。



2
・
12 光照射後、5分以上経ってから支台歯形成をする。

症例3 自家製ポストを製作してみた症例 — 歯根破折の防止を考慮してみた —



3
・
1 コア形成前の口腔内¹⁾。



3
・
2 根管充填後のレントゲン写真。



3
・
3 銀合金で製作したポスト。“刀の鏢”状のものを付け咬合力が直接根管内に作用しないよう配慮した。



3
・
4 作業模型に試適した状態。



3
・
5 ポストにセルフエッチングボンドを塗布し、充分乾燥させる。



3
・
6 ユニフィルコアを用いて口腔内にセットする。



3
・
7 ユニフィルコアを用いて歯冠部の築盛をする。



3
・
8 支台歯形成後。

おわりに

支台築造を行う場合いかなる材料を選択し、いかに築造するかを適切に判断するのは意外に難しいことである。強固な支台築造ということでは金属製のキャストコアが主流を占めてきたが、臨床においては脱離や歯根破折が予想以上に多いという実感がある。

「ユニフィルコア」は窩洞のアンダーカットを許容するために歯質の削除量が少ない。また象牙質の弾性係数に近い物性とともに高い接着性によってコアと歯質の一体化が望める結果、脱離や歯根破折が防止されると期待できる。

その他、硬化時間が適切で、築造後直

ちに形成、印象が可能であること、硬化後の切削感も良好で正確な支台歯形成が容易であること等を考え合わせると「ユニフィルコア」は現時点における最も信頼性の高い支台築造用材料であると言える。